8 AUGUST,1997
平成9年（1997年）8月10日 教皇様の声 （昭和59年10月1日第三種郵便物認可）
毎月10日発行 第208号

教皇様の聲

Libreria Editrice Vaticana,
Città del Vaticanoの転載許可済
© 1997

発行所
財団法人■精道教育促進協会
〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6
TEL.0797-31-3452・FAX.0797-31-3448

聖母の被昇天

確かな希望のしるしとして輝くマリア

「それから壮大なしるしが天に現われた。太陽に包まれた婦人があり、その足の下に月があり、その頭に十二の星の冠をいただいていた。」（黙示録12・1）

兄弟姉妹の皆さん、明日は祝された処女マリアの被昇天の大祝日です。明日、私たちは黙示録にあるこの箇所を繰り返し、教会はこの箇所をもって、救い主への期待がマリアにおいて成就したことを示します。人となられた神の御子の神殿として、原罪をまぬがれていた聖母は、生涯を通じ、全人類の運命を照らす壮大な「しるし」でありました。信者は聖母の姿に、救いの約束の成就を見ることができます。すなわち罪からの解放と、死に対する勝利です。

御子の力で贖われたマリアは、御子と共に死に打ち勝っています。信仰によってマリアは、贖い主に生涯つき従いました。イエズスの生涯とこれほど完全に一致している以上、マリアが主の最終的な栄光にあずかっていることをキリスト信者ははっきりと知り、マリアの霊魂も身体も共に天に上げられたと認めています。

皆さん、祝された処女に目を向ければ、聖母は地上を旅する私たちを「主の日が来るまで、確実な希望と慰めのしるしとして」（教会憲章68番）天から照らしておられます。マリアは人生を歩む私たちのかたわらにあって、どんなに困難で、もつれた状況の中でも私たちを支えてくださいます。

死の数か月前の一九四一年一月、聖マキシミリアノ・コルベは書いています。「アスファルトで舗装された楽でスムーズな道であっても、荒れた困難な道であっても、マリアの導きをあおぎなさい。たとえつまずいても絶望してはいけない。たった一つの愛の行為―感情が伴わず、意志のみから来る愛、すなわち聖母のために引き受けた宗教的な従順の行為―で十分なのだから。」（修道士Cassian Tetichへの手紙）

この注意深く愛情深い御母に信頼できると知る私たちは、確信して聖母に申し上げます。

「神の聖なる御母、あなたの守りのもとに馳せ参じます。必要に迫られた私たちの願いを退けず、憐れみをもって耳を傾け、お答えください。栄光に満ちた、祝された処女よ。」（九六・八・十四）

被昇天の聖母は、私たちの本当の住まいが天にあることを教えてくれる

★「そうして天では神の神殿が開け、その中に契約の櫃が見えた。」（黙示録11・19）マリア被昇天の荘厳な祝日である今日、私の祈りは世界中で主の御母を賛える信者たちの祈りと一つになります。

第二バチカン公会議が勧めるように、「教会の発端を祈りをもって助けたマリアが、すべての聖人と天使の上に上げられた天において、今もなお、すべての聖人の交わりのうちに子のもとで取り次ぎを続けるよう、それによって諸国民の全家族が、キリスト信者の名をいただく者も救い主をまだ知らない者もすべてが、平和と一致のうちに一つの神の民として幸いに集められて、至聖にして不可分の三位一体の栄光となるよう」（教会憲章69番）私たちは信頼をもって聖母を仰ぎます。

★ あなたにご挨拶します。栄光ある贖い主の御母、契約の櫃、あなたの内で、贖いの秘義が成就し、エンマヌエル（神は私たちと共に）の約束が現実のものとなって、神は私たちの兄弟となられました。

主の謙遜なはしため、神の御子を人類に与えた方、「なれかし」によって、神が望まれることを全てすなおに承諾するよう私たちにも教えてくださる従順な婦人よ。

神である御子に付き添い、つき従った祝された処女。苦しみを受け、十字架に付けられて亡くなった御子のもとで、「私たちの母」教会と全人類の母になられた方。

高間で使徒たちと共に祈られた処女よ、あなたは私たちのために取り次ぎ、天地を新しくする聖霊の賜物を手に入れてくださいました。

光栄ある処女よ、天に上げられた被昇天の秘義において、父である神は時の終わりに、御子イエズス・キリストとの一致のうちに亡くなった全ての人々のため実現させようと考えておられたことを、前もってお示しになりました。

天使の元后、諸聖人の元后よ。あなたは天から私たちのた

説教・講話・書簡等の抄訳

めに取り成し、約束の国へと地上を歩む私たちを支え、信仰を保たせ、希望を固め、神と兄弟姉妹への愛を燃え立たせてくださいます。

★ マリアよ、被昇天の秘義を黙想する私たちに、地上の物事を正しい光に照らして評価するすべを学ばせてください。私たちのまことの住まいは天にあることを忘れぬよう、お助けください。そして、さらなる兄弟愛と連帯をもって共に生きようと努める私たちを支えてください。私たちのまことの平和であるキリストの名において、正義の働き手・平和の使者とさせてください。

紀元二千年に向けて明るい星のように私たちを導く祝された処女よ。全ての男性と女性が、あなたの祝された実であるイエズスを救い主と認めることができますように。

慈悲深く、愛すべき、甘美な処女マリア！

（九六・八・十五）

経済の法則を人間のためのものに

今年五〇周年を迎えるキリスト教ビジネスマン連合イタリア大会にご出席の皆さん、ようこそおいでくださいました。

（…）最近、イタリア司教会議で承認を受けた皆さんの規約によると、キリスト教ビジネスマン連合の主な目標には「教会の社会教説を学び、実行し、普及させる」、「会員のキリスト教的形成と高い職業モラルの発展」が、「人間の価値と連帯の価値を重視した従業員間の協力」と共に上げられています。

これらの目標を掲げる皆さんは、言わば経済・ビジネスの分野での教会の使命の前線部隊です。福音の諸価値を守って、人間の価値を下げるような考え方（様々な形で現われる国家統制や過度の利益追求、種々の差別など）に対抗します。

このような証しは、現代においてかつてない状況の中、緊急性を帯びています。ビジネスも、人間的・倫理的価値と切っても切れない真の福利を促進するため召されています。

この点に関して、教会の社会教説は、先取の才と企業心が「訓練された創造的な人間労働」（回勅『新しい課題』32番）には必要不可欠であると考えており、ビジネスマンの指導的な役割を認識しています。持ち前の行動力、先取の精神、創造性によって、ビジネスマンはより良い社会の鍵を握る人物となるのです。

企業活動を行なう権利と自由な経済活動を守り、発展させるべきです。それは「個人にとって重要なだけでなく、万人の共通善にとっても重要な意味を持つ」（回勅『真の開発とは』15番）からです。ビジネスマンの側から見れば、自分の仕事を他の人々と共に、他の人々のために働く人間共同体に変える責任があります。（『新しい課題』32番参照）こうして互いに助け合いながら、誰をも疎外することなく、人間として成長することができます。

広大で力強いビジネスの世界で、必要不可欠なこの働きを促進するのは皆さんの役目です。特に現代の、必死に仕事を求めているあまりにも多くの人々に、新たな仕事の機会を提供することが緊急に必要であると訴えなければなりません。

利潤と連帯との正しい関係は、教会の社会教説のもう一つの基本点を示しています。事実、この二つの要求が衝突し合っている状態は、企業にとって不利であるのみならず、「単に利益をあげることではなく、存在それ自体が一つの人間共同体である」（前掲書35番）企業の真の存在目的を裏切ることにもなってしまいます。ですから、企業の中で従業員の能力を伸ばすことと、物やサービスの生産を合理的に行なうこととをうまく調和できるような状況を作りだすのは、ビジネスに携わる人の務めです。

ビジネスに携わる人々は、自由な経済活動を発展させると同時に、その活動を他の人々と共に、他の人々のために働く人間共同体に変える使命があります。ビジネスも人間的・倫理的価値と不可分の真の福利を打ち立てるための道なのです。経済の法則がもっともっと人間に奉仕するものとなるよう努めてください。利潤のみならず、正義と連帯の価値を仕事の場に確立し、ビジネスを人間化してください。

最近の経済の世界的な広がりは、経済界に大きな変化を引き起こしていますが、当事者間の相互依存関係がますます大きくなってきたことが注目されます。現代世界では日々、私たち誰もが全ての人に依存していることを実感できます。連帯は、義務である以上に相互関係の客観的な網の目から生じた必要です。だからこそ、生産の過程で連帯の価値に注目することは、個人の益になるばかりでなく、完全な発達を妨げる本当の原因を克服する助けともなります。

経済の法則がもっともっと人間に奉仕するものとなるよう、たゆまず働いてください。ビジネスの場と生産の過程で起こっている変化の中で、人間は先頭に立って自らの義務を果たさなければなりません。

（…）ここ数年間の大きな変化の中で、皆さんは仕事とビジネスの人間化への貴重な動機づけを生産の現場にもたらし、自由と正義と連帯の価値を確認しました。今、皆さんは現代の数々の課題に答え、文化と経済の発展に貢献するため、キリスト者であるビジネスマンとして新たなリーダーシップを求められています。

これまで同様、巧みに、また寛大に務めを果たしてくださることを心から希望します。皆さんを聖母のご保護に委ね、使徒の祝福を送ります。

（九七・三・七）

「聖なるロザリオ」（改訂新版）　ホセマリア・エスクリバー著　……ロザリオの十五玄義と黙想のしおり付き。税込定価一、二六〇円
「知識の香」（説教集）　ホセマリア・エスクリバー著　……典礼暦年のサイクルに応じた十八の説教を収録。税込定価二、九四〇円　★お申し込み・お問い合わせは精道教育促進協会まで。

環境は人間の住みか

〈環境を「資源」としてのみ考えてはならない〉

今回、聖心カトリック大学の協力により開催される「環境と健康」をテーマとした会議の主催者、後援者、そして参加者の皆さん、心よりご挨拶申し上げます。

エコロジーという名称は、一世紀以上も前から文化的なメッセージとして現われて専門家の注目するところとなり、さらに生物学、物理学、経済学、哲学、政治学など多くの分野に渡る努力を求めつつあります。それは生き物と環境との関係、特に人間とその環境との関係を研究するという形で現われています。実際、精神的にも物理的にも、環境は人間の健康に大変な影響力を及ぼします。

人間と環境との関係は、文化の原始的な段階から農業や工業、技術の面など人類文明の様々な局面を特徴づけています。近代に至って人間が環境に介入する能力はますます大きくなりました。

資源の獲得や開発は、いよいよあらわで強引なものになり、今日では環境を脅かす状態に至っています。「資源」としての環境が、「住みか」としての環境を危うくしているのです。技術文明が自然を変える強力な手段を生みだしたために、人間と環境との間のバランスが今にも壊れそうなほどです。

昔、人間は自分が生きている自然環境に対して、賛美と畏敬、また脅威に満ちた世界への恐れといった、両義的で相互交流のある感情を抱いていました。聖書の啓示は、宇宙に対する見方に光明と平和をもたらす創造のメッセージを贈りました。この世の現実は、人間を愛する神が意図されたのだから、良いものだと言えます。

霊性を持つ人間はこの世を超える

それと同時に、聖書の人類学によると、神に似せて造られた人間は、霊性を持つがゆえにこの世の現実を超えることができる、従って、自分が置かれた環境を管理する責任を負うと考えます。創造主は世界を人間の住まいとして、また資源としてお与えになったのです。

この教えから出てくる結論は明らかです。人間の神に対する関係が、人間同士の関係、また環境との関係を決定します。従ってキリスト教文化は常に、人間を取り巻く被造界を神からの贈り物として、創造主への感謝の念をもって守り養うべきものであると考えてきたのです。中でもベネディクト会とフランシスコ会の霊性は、自分を囲む全てのものへの敬意を深めることで、人間と人間を取り巻く被造物界との絆を証してきました。

世俗化のすすむ現代、私たちの前には二つの誘惑があります。知識というものを、もはや英知でも観想でもなく自然を支配する手段として考えること。自然が征服の対象とみなされるのは必定です。もう一つは、限度なき利益追求のもとに歯止めなく資源をむさぼること。これは現代社会の典型的な資本主義メンタリティの産物です。

こうして自然環境は工業力を持った少数の人々の利益の道具となり、生態系のバランスはダメージを受けて住民と未来の世代の健康が脅かされ、人類全体に害を及ぼすに至っています。

今日、私たちは相反する極端な主張を聞かされています。一方では、環境資源の枯渇という理由で（特に貧しい発展途上国の）出生率を制限しなければならない、という声。他方では、人間も他の生き物も同じで変わらず、優劣はないとする考え方。こうして他にまさる人間の責任は消え失せ、全て生あるものは平等の「尊厳」を持つ、とされます。

創造は神の摂理と知恵のわざ

しかし、生態系のバランスと環境の保全には、どうしても人間の責任を要します。それは新しい形の連帯につながるものでなければなりません。生命を尊び、最も貧しい人々と未来の世代のために十分な資源を確保することに基づいた、全ての人、全ての民族との広範で開かれた連帯が必要です。

もし現代人が科学の新しい可能性を確固とした倫理性と結び付けることに成功するなら、環境は人間にとって、全ての人間にとっての住みかであり資源となることができるでしょう。環境汚染をもたらすものを取り除き、少数者にも人類共同体の大部分をなす人々にもふさわしい健康と衛生状態を約束することができるでしょう。

汚染をもたらすテクノロジーは、浄化を行なうこともできます。蓄えられた富は、正しく分配することも可能です。それには、生命と人間の尊厳への、また今生きている世代と来たるべき世代への敬意が不可欠です。

よく心得ておくべき大切なことは、創造とは神の摂理と英知のわざであること、人間の尊厳と、創造の計画の中で果たすべき責任とに気づくこと、この二つです。

地のおもてを照らし、現代と未来の人間に良い環境を約束するためには、神のみ顔を見つめる必要があります。

一九九〇年の世界平和の日のメッセージで述べたように、環境問題の根底にある最も重大な現実は、生命が尊重されていないことです。環境汚染の多くは明らかにこれが原因です。

特に貧しい人、発展途上国の人々の間で、生命を守ること、それと必然的に結びついて健康を増進することは、地域レベルでも世界規模でも、環境保護の尺度であると同時に基本的な規準になります。

環境保全を目指す皆さんの取り組みを主が照らし、助けてくださいますように。全ての被造物をお愛しになる恵み深い御父に、皆さんの努力を委ねます。私も父の御名によって、祝福を送ります。（九七・三・二四）

不変の教え

「信教の自由」とは

▒バチカン公会議を振り返る▒シリーズ最終回▒

1　第二バチカン公会議の諸文書について考察する一連のお話も、今回が最後となりました。今日は「信教の自由に関する宣言」について考えてみたいと思います。

ご承知のように、異なった文化や宗教間の関係に関しては、様々な人間共同体、国家、時には信者同士の間でも、つねに尊敬と寛容が見られたわけではありません。教会はと言えば、生まれて間もないころから迫害を被ってきました。さらに、公会議自体が率直に認めているとおり、キリスト者の間でさえ「福音の精神にふさわしくない行動、または、福音に反する行動さえありました。」（信教の自由に関する宣言12番）

「宣言」によれば、正しい理性と啓示の名において、本当の意味での信教の自由とは「全ての人間が、個人あるいは社会的団体、その他全ての人間的権力の強制を免れ、従って宗教問題においても、何人も、自分の確信に反して行動するよう強制されることなく、また私的あるいは公的に、単独あるいは団体の一員として、自分の確信に従って行動するのを妨げられないところにあります。」（2番）

2　この権利は、真理は存在せず、どんな選択も等価値であると言うような、いかなる相対主義や宗教無関心に基づくものではありません。その本性上、真理を探し求める権利と義務を有し、また実際に自由でなければ真に人間的にそれを果たすことができない、人間の尊厳に基づいています。「真理がやさしく、そして強く心にしみこむ真理そのものの力によらなければ義務を負わせないことをも宣言する。」（1番）

しかし公会議は加えて、信教の自由という権利は、他のあらゆる自由と同じく、正当な公共の治安を尊重しつつ行使すべきであると述べています。（2番）また、宗教の実践は、公権によって指導や妨害を受ける筋合いのものではありません。（3番参照）公権にはそこまでの力はありません。公権の役目は「信教の自由の口実の下に起こりうる弊害」（7番）から社会を守ることですから。

3　兄弟姉妹の皆さん。この基本的権利があらゆる国で守られるよう祈りましょう。

祝された処女、自由で優しい婦人よ、神への感覚を養うことをお教えください。もしそれが真実で心からのものなら、全ての人への敬意と愛が伴うはずです。特に教会の息子たち、娘たちのために、第二バチカン公会議の偉大な霊感をあまさず吸収する恵みをお取り次ぎください。公会議の全文書の中に、計り知れない価値ある遺産と紀元二千年に向かう私たちのための確かな道案内のあることが、時と共にいよいよ明らかになってきました。（九六・二・十八）

教皇さまの動き

●7・6　お告げの祈りの時、教皇さまは間もなく休暇を取ることをお話しになった。「誰であれ何度かは、精神的にも身体的にも少し長い休みを取ることが必要です。特に大都会に暮らす人がしばらく自然に浸るのは大切なことです。私も来週の水曜日から、北イタリアの山の方へ休息を取りに出かけます。」

●7・9　一般謁見でクロアチアからの巡礼団を迎えて。「国土に自由と平和が戻ると共に教会も、聖堂内だけでなく学校でも、教えを説くことができるようになりました。これは要理教育に欠かせない一歩です。」

●7・10　9月27日の世界旅行の日に寄せた教皇メッセージが発表された。「旅行は21世紀に当たり、就労の機会を作り、環境を守るための重要な活動になるでしょう。それは創造の多様さを考える機会であると同時に国家間に存在する社会経済的不均衡について考える機会ともなります。旅行関係者と全ての善意の人々が、余暇を異なる文化との出会い、人々との兄弟的な出会い、連帯を実行する機会とすることができますように。」

●7・13　夏休み中の教皇さまは、集まった信者たちと避暑先でお告げの祈りを共にされた。「山の静けさの中で休息を取れたことを神に感謝します。この地の素晴らしい景観を見るにつけ、創造主の知恵と慈愛に思いを馳せたくなります。」また、アフリカの象牙海岸で開かれていた第二回国際司祭会議に言及された。「キリスト教の始まりからアフリカは多くの聖人を生み、今も殉教者たちの血の上に成長を続けています。愛する助祭たちが一日も早く司祭の叙階を受けることを望みます。司祭としての使命に断固たる宣教の意味合いを持たせてください。」

●7・15　アメリカ・バージニア州の死刑囚ジョセフ・オデールの願いに応じ、すでに人道的な立場から寛大な扱いを要請していた教皇さまは、彼のため常に、特に刑の執行の時、お祈りになることを約束された。さらに教皇さまは、生死をつかさどるのはただ主のみであることを繰り返し強調された。

●7・17　六月二四日付けで教皇さまからロシアのエリツィン大統領当てに送られた手紙の内容が公表された。「…最近国会に提出された『良心の自由と宗教団体に関する法案』を一読し、重大な関心を寄せています。」「この法案には、カトリック教会を含めた伝統宗教への言及がありません。…ロシア当局はカトリック教会が国内で何世紀にも渡って存在しているにも関わらず、まるで異質のものと考えているかに思えます。」「カトリック信者の市民が宗教生活上の妨害を被ることのないよう、当局からの配慮と安全を期待し、確信します。」「私の懸念と希望をご理解いただき、信者の法的権利を保障されることを願ってやみません。…」

「教皇様の声」　ヨハネ・パウロ二世教皇の説教、書簡、講話等を解説なしにそのまま伝える月刊紙。■毎月十日発行　■定価　送料とも一部百八六円　■年内定期購読送料とも二、〇八七円（一月～十二月号）　詳しくは精道教育促進協会まで。

郵便振替
01130-
8-72393